
物語の館

野花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

物語の館

【Nコード】

N0612W

【作者名】

野花

【あらすじ】

どんな物語でも取り扱っており、相談も受け付けている不思議な、物語の館本も服や物、いろんな物語があふれる館。類は友を呼び、そこには不思議な人がやってくる。

物語の館の案内

？誰か——いらっしゃるみたい、だね

さあ、君はどんな物語をお望みなのかな

どの物語を気に入ってもらえるかな

「いらっしゃい」

「！あ、看板を、見たんです、が・・・」

「君は…どんな物語を、ご所望かな？」

「えっと、僕、は——」

「ええ、その物語も、扱っておりますよ」

「!ほんと、ですか!？」

「はい、しかし物語の前に、お話しが」

「？」

「もし、君が満足いただけたなら——」

「・・・な、ら？」

「君の物語を、お聞かせ願いたい」

物語の館の案内（後書き）

また手を出しちゃいました・・・
なんで、我慢できないんだろう・・・

1・《浅岡 蜜》の物語―1―(前書き)

更新遅くてすみません！

1・《浅岡 蜜》の物語―1―

「君が探しているのは、『涙と笑顔』という物語だと思います。違うのなら、これかな? ―――どうぞ」

「あ、ありがとうございますっ」

僕がこの物語の館（図書館なのかな?）を知ったのは、一昨日の学校の帰り道。

少し悩み事があった僕はチラシのご相談という文字に目をひかれ、気になって気になって今日ついに館に訪れてみたのだ。

アンティークなオシャレな雰囲気の一見図書館のようだけど服とか者とかも置いてある不思議なところだった。そして同い年くらいのごく普通な少女（喋り方が珍しいかな?）がカウンターに本を読みながら座っていた。

そして今は愛想のいい笑みを浮かべながら本を僕に差し出す。

（これが―――）

僕は一気に本に夢中になり、時間がたつのも着にせず、本を読みふける。

それは悲しい物語で楽しい物語で不思議な本だった。目次はあるが作者名などはなく、短編集みたいでいろんな登場人物、主人公がいて最初はいろいろ涙から失恋、けんか、敗北、そういろんな涙から始まり、色々な笑顔、友情、奇跡、感動、笑顔で終わる物語。

「ぐすつ……ずぴー!」

「!」

（な、泣いてる……）

感動に泣いていると、不思議と言うかまあ、あるんだろうが

（全部実話？）

そう、都道府県や市町村が同じでも何も思わないが（自分の住んでるところ以外はだけど）何個か知っているとどうか、僕の通う高校や知っている他校の名前があつて、感情やすべてが本当にリアルなのだ。

「あ、あの・・・」

「はい？」

「これって、実話、何ですか？」

「ええ、すべて実話でございます」

「ほへー」

（・・・ほへー？）

（すごいなー！こんないっぱいの話よくあつめられたな・・・）

そう、かなりの量の物語があるのだ。本もかなりの重さになっており、太い。さっきからかなり時間ったてるのにまだ読み終わんない

（うん、ほんとに時間・・・あれ、今何・・・）

「あー！ー！ー！」

「へいっ！？」

「時、時間！ああ、どうしよー！お母さんに怒られるうー！ー！」

「・・・」

「あ！あの明日もきていいですか！？」

「は、はい、いつでもお待ちしております」

「あ、その本明日も見してもらえますか？」

「はい、」

「ありがとうございますっ！あ、あのじゃあ、明日！ああ、怒られるー！」

「あり、ありがとうございます、た」

へいっとおかしな返事をし、微妙な目で見られ、女の子が驚いてるのもきわずかに少年は走り去って行った。

「すご、かったな・・・」

ポツンと口からでたように呟いた少女のつぶやきが物語の館に響き渡った。

1・《浅岡 蜜》の物語―1―(後書き)

感想やコメントもらえると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0612w/>

物語の館

2011年11月15日14時26分発行